

実施報告書

HT26111

〈非武装地帯〉ってなんだろう？
—民族分断の現実を知り、平和を考えよう—



開催日：平成26年7月27日(日)

実施機関：東京純心女子大学
(実施場所) 図書館、学食

実施代表者：大竹聖美
(所属・職名) (こども文化学科・教授)

受講生：小学生 4名
中学生 3名

関連URL：<http://www.t-junshin.ac.jp/univ/>

【実施内容】

■工夫した点■

本事業の基となっている科学研究費採択課題は、「植民地朝鮮における近代児童文学の成立と日本児童文学の交渉」(研究課題番号:19720084)および、「近代韓国における児童文化運動と韓国児童文学成立期の研究」(研究課題番号:24520409)であるが、植民地期の朝鮮の児童文化についての研究成果を解説することよりも、「近くて遠い国」ともいわれる韓国の文化について、次世代を担う子どもたちに、植民地期のような偏見や価値観にとらわれることなく、新しい感性で広く隣国の文化に目を向け、理解し、親しんでもらうことを目的とし、以下の点に留意した。

- ①韓服(チマ・チョゴリ)を着た留学生が原語による韓国の絵本の読み聞かせをする。
- ②大学でコレクションしている韓国文化理解教材(絵本・伝統工芸品・服飾文化財)を展示し、異文化理解の助けとする。
- ③韓国料理のランチタイムを設け、テーブルごとに留学生を交えて一緒に食事をする事で文化理解と交流を深める。
- ④韓国の伝統工芸である韓紙工芸(写真立て)の作品作りと韓服(チマ・チョゴリ)の試着を通して、子どもたちに韓国文化を体験的に学習してもらおう。

■当日のスケジュール■

- 10:30-11:00 受付(東京純心女子大学事務局前集合)
- 11:00-11:15 開講式(あいさつ、オリエンテーション、科研費と研究に関するお話)
- 11:15-11:35 ミニ・レクチャー:非武装地帯と朝鮮半島南北分断の現実(講師:大竹聖美)
- 11:35-11:55 原語で聞く韓国の絵本(『非武装地帯に春がくると』)読み聞かせ(留学生)
- 11:55-12:15 討論:平和を考えよう
- 12:15-12:25 ミニ・レクチャー:絵本と実物で見る<韓国の文化>(講師:大竹聖美)
- 12:25-12:35 ミニ・レクチャー:韓国の韓紙工芸(外部講師:橋詰恵子)
- 12:35-13:00 実習:①韓紙工芸体験(伝統文様入りの小皿を作ろう(前半))
- 13:00-13:10 移動・休憩
- 13:10-13:50 韓国食文化体験&留学生との交流会:韓国料理ランチタイム(学食)
- 13:50-14:00 移動・休憩
- 14:00-14:40 実習:②韓紙工芸体験(ニスを塗ろう(仕上げ))
③韓服(チマ・チョゴリ)を着てみよう(補助:留学生)
- 14:40-14:50 修了式(アンケート記入、「日韓文化交流子ども大使」授与)
- 14:50-15:00 写真撮影・解散

■実施の様子■

○図書館にて「韓国の絵本と文化」を展示。

(「ひらめきときめき推進賞」受賞を記念して賞状と盾も展示)



○韓国絵本の読み聞かせとミニ・レクチャー



○韓紙工芸にトライ！



○今年は写真立て。スタンプを自由に押します。



○韓国料理のランチで留学生と交流。



○チマチョゴリを着てハイポーズ！



■事務局との協力体制 ■

会計管理と広報、備品準備、写真撮影など、講座内容以外の管理運営はすべて事務局で行い、当日の会場設営及びプログラム進行は実施代表者及びアルバイト学生が行った。

■広報体制 ■

大学及び学術振興会のHPを通して一般に広報するとともに、今年度は八王子市教育委員会の後援を申請し、市内の小学校に対象学年全生徒分のチラシを一括送付した。各小学校教室にてチラシが配布され、生徒が家庭にチラシを持ち帰ることで保護者へのイベント告知ができた。その他例年通り、新聞、雑誌、フリーペーパー等各種媒体を通して情報の掲載依頼を行った。

■安全体制 ■

参加者全員に保険をかけた。4～5名ずつの小グループに分け、それぞれ留学生の補助が付き、実施代表者、分担者がそれぞれのグループを見て回り、十分な指導に当たった。

■今後の発展性と課題 ■

今年度は韓国料理のランチタイムを新設した。留学生と一緒に食事をし交流することでより深い文化理解につながったと思う。韓紙工芸体験では、新しい課題として写真立てづくりに挑戦した。各自が好きな紋様スタンプを選択し、自由に配置することで創意工夫の楽しみも加わった。毎年好評のチマ・チョゴリの試着では、参加者が女子に偏り背格好も似ていたため順番待ちに時間がかかった。来年は、女子小学生用のチマ・チョゴリを増やす必要がある。6回目の実施であるため、チマ・チョゴリも経年劣化してきており、クリーニングなどのメンテナンスも必要である。

【実施分担者】

下川 学 教授・こども文化学科学科長
上原 文丸 教授・地域共創センターセンター長
高橋千佳子 准教授・国際交流員会委員長

【実施協力者】 9名

【事務担当者】

丸山 幸子 地域共創センター 副主任